

vol. **62**
March 2023

ファール

F a l a



P2 無意識を意識することから始める ～アンコンシャス・バイアス～

P3 やまがたカラフルパレード

P4 まち、わたし、きらめく Women's Campus 山形

P6 令和4年度開催講座報告

P8 男女共同参画に関する作品(一行詩) 審査結果



「ファール」は、山形市男女共同参画センターの愛称です。
「ファール」Falaとは、Female(女性)とala(翼)を組み合わせた造語です。

無意識を意識することから始める ～アンコンシャス・バイアス～

▼「アンコンシャス・バイアス」とは？

「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」とは、自分自身は気付いていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」を言い、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれます。

令和4年11月に発表された、内閣府男女共同参画局の「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に関する調査結果によると、「アンコンシャス・バイアス」の言葉の認知度は21・4%です。

職場などの組織、家庭、そして社会全体に影響が大きい、この「アンコンシャス・バイアス」について考えてみ

▼性別役割意識について

たいと思います。

- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
- 女性には女性らしい感性があるものだ
- 女性は感情的になりやすい
- 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない

こちらは内閣府の調査結果の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」で男女ともに上位に入っている項目です。社会全体において固定的な性別役割分担意識や「アンコンシャス・バイアス」が存在していることが、男女共同参画の取り組みの進展が十分でない要因の一つとも考えられています。

では、「アンコンシャス・バイアス」を男女共同参画の取り組みにどのように生かしていけば良いのでしょうか。山形大学人文学部社会学部准教授・池田弘乃さんに、その手がかりをお聞きしました。

▼アンコンシャス・バイアス＝悪ではない

バイアスとはものの見方や考え方の「偏り」のことです。無意識の思い込みは悪いものだけではなく、良い「アンコンシャス・バイアス」もあるかもしれません。

一律に性別によるバイアスをなくしたり、バイアスだけを取り出したたりするのはなく、どういった具体的な判断につながっているかを考えることが大切です。例えばチェックシート中の「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない」については、そう決め

つけるのではなく、育児期間中の人も支障なく活動できるサポートを整えていくためにはどうすべきかを考えることが重要です。

▼どのように「アンコンシャス・バイアス」とつき合っていけばいいですか？

自分にどういった偏りがあるかを吟味するきっかけになるといいと思います。偏りについてお互いに話し合える環境を持つこと、是正ではなく気付きにつなぎ、指摘しやすい環境になればうまくつき合っていけるのではないのでしょうか。

「…すべき」「…して当然だ」という考えは個人で持つことは自由ですが、他人に押し付けるものではありません。無意識に相手に押し付けていた偏見や思い込みに気付くことが、相手を理解することにつながっていきます。

「アンコンシャス・バイアス」のチェックシートが入口になればいいですが、シャッターになってはいけません。女性はこうだという考えの裏側には男性はこうだという考えが表裏一体となっています。

偏りがある人に会った時、その偏りが自分にならうかと考えてみることで、「アンコンシャス・バイアス」は人を攻撃するものではないこと、自分の視野を広げるためにはとても大切なものです。「アンコンシャス・バイアス」を考えてみることで個性を深めていけると思います。

▼社会に出ると学生時代には感じてこなかった壁に直面します。春から新社会人となる学生にはどのようなアドバイスをしますか？

「依存先を複数持つてほしい」と伝えたいです。これは、障がいをもつ小児科医である熊谷晋一郎さんが、自立とは何なのかという問いに対し「自

チェックシート

あなたのアンコンシャス・バイアス度をチェック。
Yesと思うものはいくつありますか？

- 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
- 女性には女性らしい感性があるものだ
- 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
- 女性の上司には抵抗がある
- 家事・育児は女性がすべきだ
- 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ
- 女性は感情的になりやすい
- 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
- 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい

内閣府男女共同参画局ホームページ・令和3年度性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_03.html チェックシートより抜粋



profile

山形大学人文社会科学部

准教授 池田 弘 乃 さん

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程満期退学。

都留文科大学非常勤講師などを経て、2014年より山形大学。専攻は法哲学、ジェンダー・セクシュアリティと法。「一人前の市民とは誰か？ーフィアに考えるために」「セクシュアリティと法」「ケアへの法哲学：フェミニズム法理論との対話」など著書や論文多数。

山形県男女共同参画審議会委員、白鷹町男女共同参画計画策定委員会委員長などを歴任。山形大学内で月1回、市内の性的少数者を支えるサークルと共に、関心のある人や当事者が集まる「カラフルカフェ」を主宰。やまがたカラフルパレード共同代表。

◆取材を終えて

「アンコンシャス・バイアス」のように新しい言葉に出会うと、古い考えは悪のように思いがちですが、必ずしもそうではない。他者を理解するためにまずは自分自身に問いかけてみる。そこから新しい第一歩が踏み出せるのだと思いました。他者を思いやる心が男女共同参画社会への近道なのかもしれません。（編集協力員 山下みどり）

「立とは依存先を増やすこと」とおっしゃっていたもので、私が大切にしている言葉です。頼る場所が職場だけ、恋人だけ、家族だけといったように一つだけにならず、頼れる先をなるべくたくさん作れるとよいと思います。人間関係に悩んだ時、愚痴やモヤモヤを話せるいろんな場所があれば、一つひとつの依存度が小さくなり、依存される側の負担も少なくなりそうです。誰もが互いに依存し合える社会になっていければと思います。

やまがたカラフルパレード

第二公園 ▶▶▶ 七日町大通り ▶▶▶ 文翔館

誰もが自分らしく生きられる社会の実現を訴えようと、性的マイノリティーの人たちやその支援者たちで街なかを歩く「やまがたカラフルパレード」が、10月30日に行われました。

共同代表を務められた池田弘乃准教授より、「やまがたカラフルパレード」についてもお話をお聞きしました。

●カラフルパレードを行うことになったきっかけや趣旨についてお聞かせください。

2019年から山形大学でカラフルカフェを開催しています。このカフェを最初に立ち上げた市内の当事者の方が昨年5月に亡くなられてしまったのですが、その方が、山形をどんな性の人でも、住みよい、暮らしやすい故郷にするために、『パレードを山形でやりたい』とずっと言っていました。その意思を継ぎ、その思いをそのままモットーにして、「誰もが自分らしく生きられる社会」というテーマで始めました。

●当日は、170名の参加者がいたということですが、開催してみでの感想は？

小さい規模でもいいから始めようと思っていたので、県内だけでなく県外からもたくさんの方から参加いただいたのが予想外で、とてもうれしく思っています。

ほかの都市で開催されているパレードでは、反対意見の方々の抗議があったことなどを聞いていたので、警戒していたのですが、そのようなこともなく、沿道からみんなが手を振ってくださり、楽しく、心強かったです。そのほか、参加できなかった方からは、メールやツイッターで『山形で開催できて本当にうれしい』という声をいただいたことがすごく印象に残っています。

●今後の計画をお聞かせください。

今年はパレード中心でしたが、パレードだけではなく、日頃から息長く、小さなイベントや交流会を開催していきたいです。また、色々な場所で交流会を開催するところから始めて、ゆくゆくは、例えば『庄内でパレードをやりたい』という声があがるような形で広がっていくと嬉しいです。

次回に向けて、キックオフのイベントを12月4日に行いました。

また、YouTubeでカラフルパレードを検索していただくと、パレード当日の様子がご覧いただけます。



カラフルパレードの様子

Women's Campus 山形

業を実施しています。

もの未来』『出産・育児』に関連したイベントを実施した11月19日、20日の『Action Day』、山形市では、引き続き女性活躍の推進、女性人材の育成に力を入れてまいります。



“Action Day”で行った活動の報告発表会を行いました。佐藤市長及び井上副市長、資生堂ジャパン 協統括部長、山形大学 柿崎准教授、社会福祉法人ヴォーチェ 佐藤理事長から講評をいただくことで、グループ活動をとおして得られた学びや課題を再認識し、活動の継続意欲の向上にもつながりました。

地域課題を解決するために、何も無いところに新たな活動を立ち上げた行動力に感心しました。5組の発表は総じて「つながり」を求める活動のように受け取りました。それだけ現代はつながりが失われている、ということなのでしょう。今後、市が音頭を取って、こうした活動が山形市の各地に広がれば、住みよい地域になっていくと思いました。

(編集協力員 熊谷功二)

参加者たちは仕事や立場はそれぞれ違いますが、山形の未来をよくしたいという熱い思いは同じであることがよく伝わってきました。自らをロールモデルとしてスキルアップ講座を開催した活動が印象的で、発信すること＝可能性が広がることだと感じました。

(編集協力員 山下みどり)

全日程を終了しました。当事業に関わってくださった地域体者になっていくことを目指した女性人材育成事業です。れ落ちる地域課題の解決を担う地域住民を育成すること取り組みであったといえます。

ムーブメントをスタート地点として捉え、地域の皆様と一

(株式会社Ridilover 成澤朗人)



まち、わたし、きらめく

山形市では、令和4年度から(株)資生堂、(株)Ridiloverと公民連携による女性人材育成事業6月からスタートしたワークショップも、参加者自らの企画による『女性活躍』『子ども』12月6日の『活動報告発表会』12月22日の『交流会』を経て無事、終了いたしました。

11月19日(土)、20日(日)『Action Day』



11月19日(土)と20日(日)には、参加者が考えた『女性活躍』『子どもの未来』『育児・出産』に関連したイベントを男女共同参画センター「ファール」、「シェルターインクルーシブプレイス コパル」、「日本の宿 古窯」の3つの会場で実施しました。

12月6日(火)『20名の女性たちによる活動報告発表会』



佐藤 山形市長



資生堂ジャパンプレステージ事業本部
東日本支社・営業・美容サポート統括部長
脇 様

『まち、わたし、きらめく Women's Campus 山形』に寄せて

山形市×資生堂×Ridiloverの共同プロジェクト「Women's Campus 山形」は、2022年12月をもって約半年のの皆様、本当にありがとうございました。当事業は、山形市に在住の女性たち自らが地域の課題を見つけ、解決の主人公減少や社会保障費増大等によって地域課題が深刻化していく中、女性が働きやすい環境を整備することや、こぼは、魅力ある地域を持続し運営する点において非常に大事な機能を担っており、当事業はその先駆けとなる貴重な今後、当事業に参加した20名は所属組織や地域内のリーダーとして周囲を牽引していかれることでしょう。この緒に「女性が輝くまち」山形を目指し、共感や取り組みの輪を少しずつ大きくしていけたら幸いです。

令和4年度 ファーラ開催講座 報告

健康講座① 7月14日(木) 夏野菜と果物の上手な食べ方・選び方

講師：野菜ソムリエ上級プロ 山口 美香 さん

旬の野菜には多くの栄養が含まれており、地元の旬の野菜を積極的に食生活に取り入れることで心も体も健康になれます。野菜ソムリエ上級プロへの道のりや、おいしい野菜や果物を店頭で判別する方法、体に良い食生活のアドバイスをいただきました。

FM 山形で担当されている番組「やおやのはなし」の様子のほか、トウモロコシはラップをして電子レンジで温める方法が一番おいしいという衝撃の事実など、すぐに食生活に実践できる目からウロコのお話でいっぱいでした。



健康講座② 8月18日(木) むせずに飲み込むということ

講師：山形県立米沢栄養大学教授 齋藤 和也 さん

嚥下のしくみについて図やイラストによる詳しい説明がありました。ヒトが1日千回位つばを飲み込む等正確に嚥下できるのは、脳に複雑な嚥下を簡単にできるしくみがあるからだと言及、驚きました。クジラなどの生物や大人と赤ちゃんの比較など、ヒトの進化や成長という広い視点でとらえる学術的な内容で、なるほどという点が多々ありました。

嚥下障害の様々な手術やリハビリについてのお話もありました。講話の内容や日頃気になること等たくさんの質問が出され、一つ一つ答えてくださりとても参考になりました。



エンパワーメント講座① 8月19日(金) 日常生活や仕事でもつかえる英語を学ぼう

講師：山形市国際交流員 ディーン ブレー さん

英語圏の文化と日本文化から見るコミュニケーションや表現の違いや、どうすれば難しい言い回しや名前などのスペルを簡単に伝えられるかを教わりました。例えば、「Hello」という挨拶。正しい発音で伝えないと英国の名門男子校「Harrow」と勘違いされる事もあるとのこと。そんな時は、「Hi」と挨拶すると勘違いされずに伝わり簡単とのことでした。

英語嫌い、英語が苦手な人でも、分かりやすく、楽しく学ぶ事ができました。



男女共同参画講座① 10月1日(土) 未来のお金のことを考えよう～20年後の自分におけるマネー講座～

講師：ライフプランナー ソニー生命保険株式会社 安孫子 ゆみえ さん
ライフプランナー ソニー生命保険株式会社 鎌水 広志 さん

はじめに、現在から20年後、30年後までのライフプラン表を作成しました。講師の安孫子さんによると、「収入」を3つの財布に分けて考えるとのことでした。1つめは、「今の財布」。出入りが忙しく「使い方」「貯め方」「借り方」に使われます。2つめは、「万が一の財布」です。リスクヘッジのための物で損害保険や生命保険です。3つめは、鎌水さんから伺った「将来の財布」で、育てる財布だそうです。

この3つの財布のバランスが大切だそうです。



健康講座③ 10月12日(水) 薬剤師が教えるお薬との上手な付き合い方

講師：コスモス薬局管理薬剤師 今井 隆裕 さん

薬に関する基礎的な知識から専門的な知識まで、幅広く教えていただきました。薬を飲むタイミングは、食前や食後などと決められているけれど、それは理由があるとのこと。コップ1杯の水で飲むのも、薬が食道に張り付かないようにするため。市販薬を買う際にはしてはいけない行動として①見た目やCMの印象で購入する②継続して飲み続ける③使用上の注意や用法用量を確認しない、の3点を挙げていただき、薬の専門的な知識を持っている薬剤師をもっと頼ってほしい、とのことでした。



働く女性の講座②③

今からでも遅くない ZOOMってなに?!

基本編 11月4日(金) おうち編 11月11日(金)

講師：AISOHO株式会社 取締役 海谷 美樹さん

「基本編」ではZOOMアプリのインストール方法や基本知識、背景画像の変更やチャット機能について学びました。「おうち編」では、自宅よりZOOMで参加し、リアルタイムで質問したり、新しい機能を試したりしました。

これからは、ビジネスだけでなく遠方の家族と気軽にZOOMで会話ができる時代になっていくのだと実感した講座でした。



女性学講座 11月13日(日)

マンガから考える自分の生き方、愛し方

～多様化するパートナーシップを理解するために～

講師：ライター／東北芸術工科大学文芸学科准教授 トミヤマユキコさん

かつての「少女マンガ」は今、「女子マンガ」と呼ばれます。女性の生き方が多様化し、「少女」ではくなくなりなくなりました。女子マンガのキャラクターは時代を反映して働く女性が登場します。仕事と恋愛、人生が有機的に関係し合う女子マンガでは、恋愛のウエイトが低いものが目立つようになりました。あこがれよりも現実を描いており、少女マンガは他人事として読みましたが、今は自分のこととして読むそうです。結婚しても年齢を重ねても安泰とはならない不安定な中で、どう生きていくか。現代の社会を知りたいれば新聞もいいが、女子マンガも有効です。男性にも必ず得るものがあるそうです。



DV防止講座 11月22日(火)

わたらしく生きるために

～意外と知らない離婚手続きについて～

講師：あかつき法律事務所 弁護士 土田 文子さん

離婚するにあたり、「離婚すること」「未成年の子の親権者」を最低限決めなければなりません。離婚手続きのうち90%は協議、9%が調停、1%が裁判によって決定します。DVを受けている場合は県女性相談センターや警察などに相談して記録を残し、弁護士費用が心配な時は法テラスを利用することができるなど、離婚までの道のりを法律に沿って教えていただきました。財産分与については個別に状況が違うので弁護士を頼ってほしいとのことでした。



イクメン・カジメン・イクジイ講座② 12月3日(土)

パパ、おじいちゃんと一緒につこう!

～クリスタルガラスが光るオーナメント・サンキャッチャー～

講師：木の下商店 店長 木下 喜代さん

窓辺に吊すと太陽光を反射して、部屋の中に虹を生み出す「サンキャッチャー」幸運を呼ぶとも言われているインテリア作りです。

パパやおじいちゃんと子ども達で参加しました。キラキラしたクリスタルと自分好みの色や大きさのビーズにワイヤーを通し、2つと同じ物がない自分だけのサンキャッチャーを作りました。出来上がったサンキャッチャーを西側の廊下で太陽の光に当てて、かもし出された虹色の反射光を確認し楽しんでいました。



..... 令和4年度 ファーラ市民企画講座報告

市民企画講座① 8月28日(日) 震災とコロナ禍に向き合う映画の力

実施団体：映画で男女共同参画を考える会

岡崎監督のコロナ禍に焦点を当てた三部作の一つでもある「東北の力・文化の力」が上映され、上映後に参加者の意見交換も行われました。

東北の歴史・文化を通して震災の復興を願う各地の取り組みの様子が上映され、山形市内の高校生の傘福作りや福島島の「青い赤べこ」作り、岩手の仮設住宅を保存し震災を伝える取り組みなどがわかりました。

また青森市の三内丸山遺跡に象徴される縄文文化の始まりは、東北人の粘り強い精神につながっており、コロナ禍を強く生き抜いてほしいという監督の想いが伝わってくる作品でした。



令和4年度 男女共同参画宣言都市事業 「男女共同参画に関する作品（一行詩）」審査結果

大学・一般の部 応募総数151作品

最優秀賞

子育てに家事にと
必死に生きた年月は
ブランクなのでしょうか
これほどまでに
多くを学んだ濃厚な時間は
なかったでしょう
時間をくれた方々に感謝し
パワーアップしたあなたを
見せればいい

武田 梨沙
(山形市)

優秀賞

家事育児見待ちしてい
たら勿体ない
一度しかない経験なのに
任せきりなんて勿体ない
そんな考えの男性が増え
たらいいな

吉田 日向子
(山形大学)

優秀賞

一人ひとりが輝ける社会
になるために
自分にできること
自分にしかできないこと
それを見つけて一生懸命
頑張ればいいんだよ

吉水 実夢
(東北文科大学)

中学・高校の部 応募総数756作品

最優秀賞

あ、こんな考えもあるの
か！
あつなるほど。
あっ、すごい。
いろんな人、いろんな考
えとの出会い。
同じ人なのにここまで
広がる多様性。
多様性が生み出す感動は、
きっと男女共同参画社会
を創り上げる。

伊藤 眞央
(山形東高1年)

優秀賞

皆一人の間人だ
「男だから」「女だから」
そんなの関係無い！
私たちの可能性は
無限大
「自分らしく」
生きていこう。

菊池 凜央
(第五中3年)

優秀賞

明るい未来への扉は
私達にしか開けることが
できない
その扉は地域の中に
その扉は学校や職場の
中に
その扉は家庭の中に
その扉は私の中に
社会を変化させられるの
は私達だ

遠藤 悠夏
(山形東高1年)

優秀賞

私の家では男女平等の
ニユースを見る度
手を止めてみんなで話し
合う。
自分の意見を
伝えること、
話し合える
環境があることに
感謝をしたい。

根田 陽花
(山形商業高3年)

たくさんのご応募
ありがとうございました！



令和4年度
「男女共同参画に関する作品」
入賞作品集のホームページはこちら

※次号 63号から、年2回の発行が年1回に変わります。

編集後記

ファーラ大学に参加し、男女共同参画について学ばせてもらった。今、ファーラ情報紙の編集に関わらせてもらい、更に深く知ることが出来たように思う。
毎回、真新しいカタカナの言葉を見てその意味を知ることが出来た。今回は、「アンコンシャス・バイアス」=思い込みによる偏見のことだ。
自分自身に対する「アンコンシャス・バイアス」は、知らぬ間に私の生き方等に大きな影響を与えているように思う。「自分には無理」、「女性だから無理」とか「年だから無理」など…。「アンコンシャス・バイアス」に向き合い続けることで可能性を広げる事が出来るかも。「思い込み?」「本当?」そう考えることで、私でも、まだ前を向いて進めそうな気がする。
(板垣 玲子)

編集協力員 板垣 玲子 熊谷 功二 山下 みどり

- 男女共同参画情報紙「ファーラ」は、以下の場所で配布しています。
男女共同参画センター「ファーラ」、市役所(1階刊行物コーナー・市民課待合フロア)、霞城セントラル内の市の施設、市の公民館、コミュニティセンター、市立図書館
- 男女共同参画情報紙「ファーラ」は、インターネットでも見ることができます。(山形市HPで「ファーラ」で検索してください。)
- 読んだご感想・ご意見などがありましたら、ぜひお寄せください。お待ちしております。